CREATIVE MIND ——— こころをカタチに

MAEDA ROAD

Corporate Social Responsibility Report 2014

CSR報告書

顧客のニーズに応え、人と環境にやさしい道づくり

発行目的

2007年から「環境報告書」を発行して、前田道路の環境関連への取り組みに関する情報をお伝えしてまいりました。2013年からステークホルダーの皆様に対して、当社の事業活動における社会的責任について報告することを目的として、「CSR報告書」を発行することとしました。

報告対象組織

前田道路株式会社

報告対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日
当該年度以外の内容も一部に掲載しています。

見通しに関する注意事項

本報告書は、前田道路株式会社の過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通しに基づく将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定ないし判断です。諸用件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が予測と異なったものとなる可能性があります。ステークホルダーの皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。

CONTENTS

● トップメッセージ……4

● 特集 前田道路の安全とECO
人と環境にやさしい道づくり……6

● 環境性報告
持続可能な地球環境のために……8

● 社会性報告
地域社会とのコミュニケーション…12

● CSRマネジメント……16

● 第三者意見……18

● 会社概要……19

トップメッセージ

人と環境を大切にし、社会に役立つ事業活動で貢献します。

● 私たちを取り巻く状況

経済のグローバル化が進み、情報コミュニケーションのスピードが高速化する中、私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。エネルギー需要の増大や地球温暖化の進行、台風やゲリラ豪雨などに象徴される自然災害の多発や、高齢化社会の進展に伴う医療制度改革の必要性など、さまざまな問題が山積しています。企業は、持続可能な社会の実現に向けた事業活動について、お客様、株主、取引先、地域社会などさまざまなステークホルダーの皆様の観点から、改めて見つめ直す必要があります。

● 道路について

私たちの事業活動は、人と社会をつなぐ重要な社会基盤である“道路”を造り、守るという大切な役割を担っています。道路は人々の生活を豊かにし、地域の経済や産業を育成する重要なインフラです。

大切な生命線である道路を維持することで、いつ起きるかわからない自然災害から人々を守り、安全・安心な環境を提供し、道路という重要なインフラを守る役割をしっかり果たすことが、当社にとって最大の社会的責任であると考えています。

● 環境に対して

地球温暖化をはじめとした環境問題は、企業として対処すべき重要なテーマです。当社は持続的発展が可能な地球環境の実現に向けて、低炭素社会へ向けた取り組み「人と環境を大切にした事業活動」を推進するために、「経営の理念」「環境理念」を定めています。

この理念のもと、道路建設という社会性、公共性の高い事業を行う企業として、以下の3項目を事業活動の柱としています。

1. 地球温暖化防止策としてCO_2排出量の削減
2. 循環型社会形成を目指したリサイクル事業の推進
3. 環境配慮型技術の開発

これらを複合的に組み合わせ、CO_2総排出量の削減を図り、環境負荷低減に取り組んでいきます。

● 社会に対して

当社は地域の人々とともに環境を大切にし、安全・安心に寄与する地域貢献型の企業をめざしています。全国各地に展開する営業所を、災害時には復旧活動の拠点とし、地域の方々の支援施設として運用するため、設備のリニューアルを推進しています。今後も年間10ヵ所程度の整備を継続し、支援拠点を増やして

いくことで、地域貢献をかたちにしていきます。

東日本大震災発生以降、被災地の復興に取り組んできました。復興への道のりはまだ道半ばですが、被災地の方々が平穏な日々を送ることができる日まで、復興支援を継続していきます。

● これからの前田道路

当社が社会に役立つ企業として成長していくためには、多くのステークホルダーの皆様からの期待にしっかり応え、「安全、安心、良い仕事」で、安定した豊かな社会の構築に貢献することが、社会的責任を全うすることと確信しています。

私たちの事業活動の原点は、社会の皆様からの信頼です。これからも地域の人々と環境を大切にし、社会からの信頼を勝ち得るよう努力していきます。

今後も、ステークホルダーの皆様方に当社の社会貢献活動、環境保全活動の取り組みに、一層のご理解とご支援をいただくとともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

磯昭男

特　集

前田道路の安全とECO
人と環境にやさしい道づくり

道づくりのプロとして前田道路は事業活動を通じて、安全な道づくり、環境にやさしい道づくり、快適な暮らしを守る道づくり、災害時に緊急対応できる製品づくり、そしてそれらを実現するための体制づくりを常に考え社会に貢献しています。

前田道路は、災害・緊急時に迅速な対応が可能です

全国の営業所・専属作業員宿舎のリニューアルを進め、
人材確保・環境配慮・地域貢献しています。

当社では、人材確保・環境配慮・地域貢献を目的とした、営業所と同敷地内に建つ専属作業員宿舎の建替えリニューアルを行っています。

作業員の高齢化や、若年層の減少により現場最前線の人手不足が懸念される中、**ものづくりの根幹を支える人材の確保のため、「衣・食・住」を完備した「居心地の良い」環境を整えることにしました。**

専属作業員の宿舎は、全室個室、冷暖房、食堂を完備し、快適な住空間を提供することで人材の確保に努め、**災害などの緊急時には迅速に対応出来る環境を整えています。**

また、建物は、耐震性に優れているほか、敷地内に、環境に配慮した太陽光発電施設や、ガス貯蔵槽を設置している営業所もあり、災害時には復旧活動の拠点となります。地域住民の方々の支援施設として運用することで、地域貢献をかたちにしており、今後も全国の営業所、専属作業員宿舎を同様に整備していきます。

災害時に緊急対応可能な
マイルドパッチ

開発経緯

常温アスファルト補修材は貯蔵性が良く、簡易に使用できるため、道路上の軽微な破損（ポットホールなど）の補修や災害時の緊急対応備蓄資材など様々な用途に使用されています。しかしながら通常の加熱アスファルト合材と比べて強度が低いため、一時的な仮舗装として使用されています。

そこで前田道路では加熱アスファルト合材と同等の強度を早期に発現する常温アスファルト補修材「マイルドパッチ」を開発しました。

開発のポイント

マイルドパッチは特殊添加材と水が化学反応して固まるため、雨天時や水たまりでも問題なく使用できます。これまで、水はアスファルトの天敵として扱われてきましたが、水と反応する特殊添加材を開発できたことが業界の常識を打ち破るきっかけとなりました。さらに配合の調整を繰り返し行い、早期に高い強度を発現させることに成功しました。

使用事例

通常の道路補修はもとより、耐久性が要求される高速道路や大きな制動力がかかる料金所などで主に使用されていますが、店舗やマンションの駐車場などの身近な場所でも多く使われています。

また、地震や豪雨などの災害が発生した際にいち早く対応できる補修材料として利用されています。九州の集中豪雨時や東日本大震災復興工事にも多く使用されました。

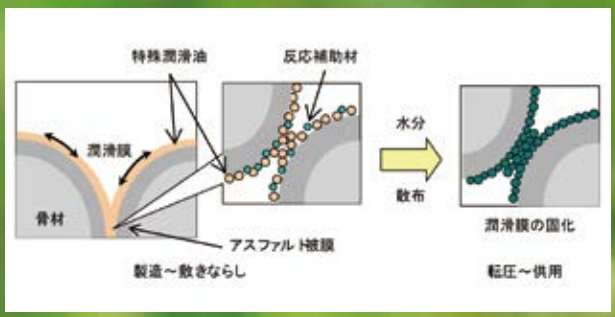
「日経コンストラクション」の特別リポートの中でも震災復旧技術として第３位に選出されるなど、専門家の方からも高い評価をいただいています。

今後

2012年度は軽量骨材を用いたマイルドパッチを開発し、耐久性を低下させることなく軽量化を図ることができました。これまで一袋20kgのものが同じ体積で12kgになります。これにより作業する際の労力軽減や、同じ重量でより多くの面積を施工することが可能になりました。

マイルドパッチをより使いやすくするために、さらに改良を重ねていきます。

日経コンストラクション掲載記事
出典：『日経コンストラクション』2012 年 10 月 22 日号
「特別リポートプロが認める震災復旧技術」P.52、P.55



環境性報告

持続可能な地球環境のために

● 環境理念

わたしたちは、『経営の理念』の精神に則り、環境問題を企業の社会的責務の中の重要な課題と認識し、『人と環境にやさしい道づくり』のスローガンのもと、環境への負荷を低減し持続的発展が可能な社会を形成することに貢献すべく、環境への配慮を組み入れた事業活動を展開する。

● 環境マネジメントシステム

「人と環境にやさしい道づくり」を具現化するために、環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を全社一括で取得しています。各事業所毎に環境影響評価を行い、設定した「目的および目標」について、運用管理を行っています。2013年度は7～8月にすべての事業所を対象に内部監査を実施しました。特に多かった指摘は、「緊急事態への準備および対応」、「環境に関する教育」、「法令などの遵守評価」などで、その指摘の再発防止処置を実施し、有効性を確認しました。また、9月に審査認証機関からサーベイランス（定期審査）を受け、改善を要する指摘0件、観察事項7件となり、認証が継続されました。観察事項については、改善を行っています。

2013年度　各部門の実績と評価

2013年度における環境行動計画の実績は、下記の通りです。2013年度実績の評価をもとに設定した2014年度目標を達成するために、環境保全活動のさらなる改善を継続的に取り組んでいきます。

● 環境行動計画と目標（2013年度実績と評価）報告

環境目的	対象部門	2013年度　目標	実績	評価	2014 年度　目標	関連記事
CO_2排出量の削減	製品部門	バイオマス燃料使用工場 新規5工場	3 工場		バイオマス燃料使用工場 新規3工場	P.10
		ハイブリット油圧ショベル 10台導入	5 台		ハイブリット油圧ショベル 11台導入	
	工事部門	ECOモードフィニッシャー 10台導入	9 台		——	
	全部門	——	総排出量 318,343t-CO_2	–	——	P.9
	製品部門	——	——	–	2009年度比1.9%削減 (2009年度実績29.6kg-CO_2/t)	
	オフィス部門 (本支店)	前年度比　5.0%　削減 (オフィスの使用電力量)	▲ 0.3%		前年度比　3.0%　削減 (オフィスの使用電力量)	
	工務・製品・ 総務共通	——	2 支店	–	テレマティクスサービスの導入 9 支店	P.9
リサイクル資材の 有効利用	製品部門 (合材工場)	前年度比　3.0%　増加 (再生品の製造)	5.3%		前年度比　3.0%　増加 (再生品の製造)	P.11
オフィス廃棄物の 削減	オフィス部門 (本店)	前年度比　6%　削減 (事業系一般廃棄物)	▲ 19 .0%		前年度比　16.7%　削減 (紙類を分別し再利用を推進。 可燃ゴミ削減)	
環境に配慮した工法 の提案営業	技術営業部門	提案件数60件 (環境に配慮した工法)	76 件		提案件数60件 (環境に配慮した工法)	
環境に配慮した工法の 受注確保	技術営業部門	受注率50% (提案件数比)	24%		受注率50% (提案件数比)	
環境に配慮した工法の 研究開発	技術部門	技術開発件数 2 件以上	2 件		——	
環境に配慮した 施工方法	工事部門	——	——	–	情報化施工 施工面積 前年度比　6%　増加	

達成　概ね達成　あまり達成できなかった　達成できなかった

● CO_2排出量削減への取り組み

CO_2削減の取り組みとして、これまで中長期計画に基づき削減目標を設定してきました。

2013年度も前年度同様に使用燃料のエネルギー転換などで削減に取り組んできましたが、アスファルト合材製造量が増えたために総排出量は対2009年度比8%増という結果となりました。

当初目標は対2009年度比2014年度12.5％減、2020年度25％減としてきましたが、国の削減目標の設定変更に応じて、当社も見直しをすることとしました。CO_2排出量の98％はアスファルト合材や再生路盤材などの舗装材製造に起因するものであることから、2014年度はアスファルト合材製造1t当たりのCO_2排出量を対2009年度比1.9％減とする目標に修正しました。

● 事務所のリニューアルに合わせ、太陽光発電施設設置を推進

営業所や合材工場の事務所をリニューアルする際、屋上部分に太陽光発電施設を設置して、再生可能エネルギーを有効活用しています。2013年度は、新たに9ヵ所に太陽光発電施設を設置し、総発電量は、201.5kWhになりました。

旭川営業所

昭島営業所・作業員宿舎

大阪合材工場

相模原営業所

● テレマティクスサービスの導入

環境負荷低減 および コンプライアンスの遵守

2013年7月から、車両運行管理システム「テレマティクスサービス※」を各支店に順次、導入しています。テレマティクスサービスによって、運行状況が可視化され、運転者と管理者の安全運転・指導が徹底されます。この安全運転の徹底により、エコドライブが実現し、燃費が向上、CO_2削減に寄与します。さらには道路交通法関連の法規遵守により、コンプライアンス強化に繋がります。

※テレマティクスサービス：車両に車載機と GPS アンテナを装着し、通信回線を通じて取得した様々な車両データを、インターネット上で運行管理に有効な情報として提供するサービス。

本体寸法　99mm(W)
70mm(D)
35mm(H)

- ●運転速度
- ●位置情報
- ●燃料情報
  （一部車両除く）
- ●時間情報

- ●急加速　●急減速
- ●速度超過
- ●アイドリング
- ●燃費（一部車両除く）
- ●車両所在地　他

VOICE

北関東支店
栃木合材工場
若狭　雄二郎

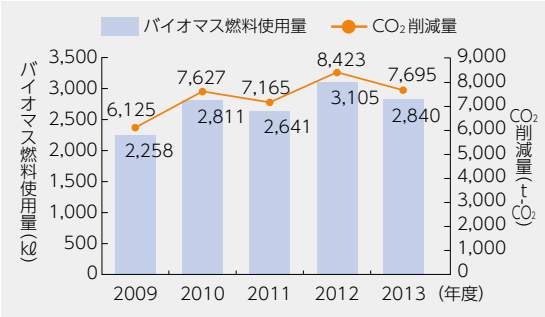
当工場では2013年度からバイオマス燃料のひとつであるグリセリンを化石燃料の代替燃料として活用しています。材料の加熱乾燥にグリセリン燃料を使用するようになって、効率よく燃焼する条件や仕組みを改めて学ぶことができました。これからも地球にやさしいバイオマス燃料について知識や技術を高め、さらなる活用とともに燃焼の効率化を追及しながら、CO_2削減に努めていきます。

環境に配慮した工法・技術

● バイオマス燃料の活用（木くず・木質タール・グリセリン）

バイオマス燃料活用合材工場

● バイオマス燃料使用状況



2007年度から、アスファルト合材製造に必要な化石燃料の代替として、バイオマス燃料（木くず・木質タール・グリセリン）を活用しています。2013年度は、12工場（既設9工場、増設3工場）で2,840kℓを利用しました。その結果、12工場でCO_2を約7,700t-CO_2削減することができました。木くずは東京総合合材工場に設置してある「木質バイオマスコージェネレーション施設※」を介して、同工場の熱および電気エネルギーを供給しています。

※本施設は、木くずを直接燃焼させずに、可燃性ガスであるバイオマスガスと炭化物を発生させる間接加熱式熱分解ガス化炉を採用し、アスファルト合材の製造に必要なエネルギーを供給するシステムです。なおCO_2削減量には、グリーン電力認証分が含まれていません。

● ロードサスペイブ（振動軽減舗装）

ロードサスペイブは表・基層の打換え時に、振動減衰に有効な特殊制振シートを含む振動減衰層を設置するだけで道路交通振動の低減が可能な舗装です。そのため、従来の路床改良や路盤強化といった大規模な対策を実施することなく、短期間の工事で沿道の生活環境を改善することができます。

また、ロードサスペイブには、表層の直下に振動減衰性能の高い特殊改質アスファルト合材（ロードサスミックス）を設置するタイプもあります。

東京都中野区

● ヒートオフペイブ（遮熱性舗装）

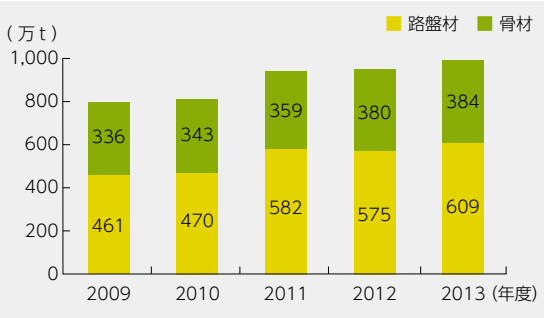
「ヒートオフペイブ」は、遮熱コーティング材料を舗装表面に塗布することで、路面温度の上昇を抑制する遮熱性舗装です。

この遮熱コーティング材料は、可視光線を吸収し赤外線を反射させる特殊顔料と、特殊樹脂等を混合したもので、路面温度の上昇を抑制しヒートアイランド現象の緩和に寄与します。

新虎通り（東京都港区）

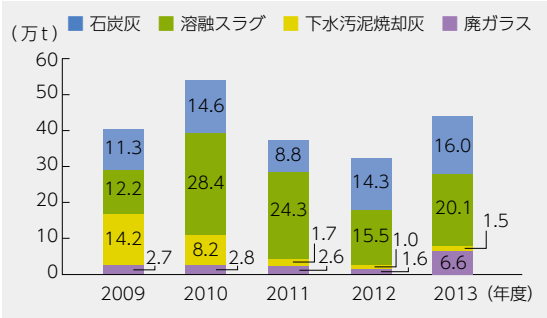
省資源・資源循環の促進

● 建設副産物のリサイクル状況



循環型社会の形成に向け、建設現場で排出される建設副産物のうち、再生資源として有効利用できるアスファルト塊やコンクリート塊などのがれき類を受け入れて、リサイクルしています。それらのがれき類を再生骨材、再生路盤材として製品化し、全国の合材工場で再生アスファルト合材、再生路盤材として製造・販売し、再資源化への取り組みを推進しています。

● 他産業副産物入りアスファルト合材の出荷数量



合材工場では、他の産業で発生した廃ガラスや溶融スラグなどの副産物を受け入れ、性状を確認した上でアスファルト合材の材料として活用しています。他産業副産物の受け入れについては、2011年度以降、東日本大震災の影響もあり年々減少していましたが、2013年度には、これらの副産物を材料としたアスファルト合材が3年ぶりに増加に転じました。今後も資源循環型社会の構築に寄与できるように、限られた資源の有効活用を積極的に推進していきます。

VOICE

東京支店
軽部　重樹

今回開通した「新虎通り」の現場では、外堀通りの接続部から虎ノ門ヒルズまでの約400 mを施工しました。道路幅員は、左右の歩道を含め100 mほどあり、開放感がある道路となっています。周囲は、アメリカ大使館や虎の門病院、ホテルなど国内外ともに重要な施設建物が多いことから、通行車両や歩行者も多く、細心の注意をはらいながらの施工となりましたが、無事完了することができました。

社会性報告

地域社会とのコミュニケーション

VOICE

中部支店
製品部
藤野　亜希子

2013年10月に名古屋市で建設技術フェアが開催されました。中部支店も環境リサイクルブースに出展し、全天候型高耐久常温合材のマイルドパッチの紹介を行いました。水で固まるという特性に驚く学生の方や、自宅の補修に使ってみたいと興味を持ってくださる一般の方、実際に使用していただいた企業の方など多くの来場者の方々にお越しいただきました。普段なかなか聞くことのできない皆様の感想などを直接お聞きすることができ、今後の励みとなりました。

● 全国各地の展示会やフェアに出展

当社は、毎年全国各地で開催される建設関係の展示会やフェアに出展し、多くの技術をPRしてきました。2013年度は、国土交通省関東地方整備局で開催された「建設技術フォーラム」や、東京ビックサイトで開催された「ハイウェイテクノフェア2013」、その他各地の展示会やフェアに出展しました。会場には、建設業界の方だけでなく、普段は建設業とあまりかかわりのない一般の方も多数来場され、当社の環境に配慮した技術を中心とした多くの技術を紹介させていただきました。

北関東支店

中部支店

関西支店

本店

● 保育園にベンチを寄贈／平成25年度 知寄3丁目地区電線共同溝舗装工事

本工事は電線類地中化事業に伴う舗装整備工事でしたが、交通標識類の視距確保や沿道の車両出入りの安全確保の観点から、歩道内の街路樹（ナンキンハゼ）を12本撤去する必要がありました。この街路樹は地域にも親しみのある木であったため、当社としては単純な高木撤去とせず、ベンチと一人掛けイスを製作し、高知市立ちより保育園さんに寄贈させていただきました。保育園ではベンチの作り方などを説明させていただいたことで、園児たちに非常に興味を持ってもらい、大変喜ばれました。

保育園に寄贈したベンチ

● 現場見学会（佐伯鶴岡高校）／東九州道（佐伯～蒲江）野々河内地区舗装工事

大分県佐伯市は、2012年度に開通した蒲江IC～延岡市の北川IC間の開通によって、宮崎県との県境を越えた交流が活発になりました。観光客が約４割増加したとの発表もあり、残る佐伯IC～蒲江IC間の早期開通が期待されている地域です。その中で、2014年1月24日、未来を担う地元高校生の皆さんが、施工中の現場を実際に見学しながら、土木工事の最新技術や現場の雰囲気を肌で感じて、建設業に関心をもっていただけるように、現場見学会を開催しました。見学後に行ったアンケートでは、『現場のイメージが違った』『情報化施工が面白かった』などの意見をいただきました。

現場見学会に参加した高校生の皆さん

現在、施工中の現場については、当社HPから閲覧できます。企業情報／事業所一覧／各支店をご覧ください。

清掃美化活動への参加／しながわCSR推進協議会への参加

2014年3月19日、「しながわCSR推進協議会」主催による清掃美化活動が実施され、昨年度に続き参加しました。この活動は、社会貢献に対する社員の意識啓発や協議会の区民へのPR、参加者の交流を深めることを目的として実施されています。

当日は、参加企業と品川区役所が一体となり、チームに分かれて大井町周辺地域の清掃美化活動を行いました。清掃中に地元の方に声を掛けていただくこともあり、地域の方々との触れ合いに温かい気持ちで活動することができました。街がきれいになっていくとともに、環境や美化に対する意識が高まる良い機会となりました。

清掃活動に参加したメンバー

地域福祉の充実にも繋がる使用済み切手の回収

本店所在地である東京都品川区で暮らす方々のお役に立てるようにと、2013年度からは、使用済みの切手を「社会福祉法人品川区社会福祉協議会」に寄付させていただきました。この使用済み切手の売却収益金が敬老杖などの購入に役立てられ、区内にお住まいの75歳以上の高齢者の方々に無償で提供されています。

本店では各フロアに回収BOXを設置し、使用済み切手の回収活動を積極的に行っています。また、2012年から始めたカレンダーの寄付も引き続き継続しています。

回収した使用済み切手

ペットボトルキャップ回収活動

2013年度も引き続き、「NPO法人エコキャップ推進協会※」が行うペットボトルキャップの回収活動に参加しています。集められたペットボトルキャップは、樹脂メーカーに引き取られ、その対価が「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会（JVC）」を通じて世界の子どもたちにワクチンが届けられます。ペットボトルキャップもリサイクルされるため、自然にもやさしい活動です。

※「NPO法人エコキャップ推進協会」についての詳細は、Webサイトからご覧ください。 http://www.ecocap.or.jp

回収したペットボトルキャップ

小笠原森林生態系保全活動への寄付

当社と関わりの深い小笠原諸島における森林生態系保存活動の一環として、外来樹木である「アカギ」の駆除活動を行っている団体へ活動事業の支援を行いました。単に「アカギ」を駆除して廃棄するのではなく、駆除した「アカギ」樹木の再利用を行い、小笠原の森林生態系保全の普及啓発活動を支援しています。

伐採した「アカギ」から作った標識

VOICE

東京支店
第一営業部
菊池　真琴

東京支店では、2010年からペットボトルキャップの回収を行っています。2フロアそれぞれに回収箱を設置しており、2013年12月までの回収実績は15,148個となりました。ワクチンに換算すると18.4人分というわずかなものではありますが、1本でも多くのワクチンを世界の子どもたちに届けることが出来るよう、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。

VOICE

本店
技術部
守安　弘周

勤続25年間を振り返ると、本当にあっという間でした。仕事を通じてたくさんの人と巡り会えたことが一番の財産です。先輩・同僚・後輩はもちろんのこと、これまで支えてくれた家族に感謝しています。特別休暇を利用して、家族と一緒にリフレッシュしたいです。
これからは、今までの経験を生かしさらに若手職員の指導に励み「技術の前田道路」と言われる会社にしていくことを目標に邁進してまいります。

従業員とともに

● 健康増進（心とからだ）の推進

からだの健康管理は、健康保険組合の協力により35歳以上の従業員については、生活習慣病検診を行っています。再検査が必要な者について法定検診分は会社にて負担をし、早期発見と早期治療を目指しています。心のケアについては、年1回全従業員に対し、保健師の面談を行い、きめ細かな検診ができるよう配慮しています。

保健師面談の様子

● 永年勤続表彰

毎年5月に行われる社内表彰式において、勤続満25年に達した社員に対し、賞金ならびに10日間の特別休暇（リフレッシュ休暇）を授与しています。永年勤務した社員を慰労するとともに、健康増進および心身の活性化を促進することを目的としています。

永年勤続表彰の様子

● 障がい者雇用の推進

障がいのある人が持てる能力を発揮し、生き生きと働くことができるよう取り組んでいます。障がい者の雇用率は、2013年6月1日現在で、2.29%となっており、法定雇用率(2%)を達成しています。

● 多子扶養手当の支給

第3子以降の子どもが生まれた社員に対して、その翌月から高校卒業までの期間、多子扶養手当を毎月支給しています。この制度は、2005年4月から実施されており、少子高齢化が進行する中で、会社が従業員の子育てを経済的に支援することにより多子家庭が少しでも増える一助となることを目的としています。

● 特別研修（管理職対象）の実施

取締役・執行役員・支店長・本店幹部社員などの経営層を対象に、弁護士など、さまざまな分野の方々による研修を行っています。この研修を通して、不正防止やメンタルヘルスなどをはじめとする企業を取り巻く課題への対応を考え、公正な事業活動を目指しています。

特別研修の様子

マネジメントシステムの推進

● 労働安全衛生マネジメントシステム

安全第一の徹底による危険ゼロ職場の確立

東北・北関東・東京・中国・九州・四国の6支店において、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）の認証を取得しています。その他の支店においてもこの規格に準じて労働安全衛生マネジメントシステムを運用しています。リスクアセスメントにより特定した以下に示す主な危険源を管理することにより、危険ゼロに近づけていきます。

主な危険源

1）工事部門

・掘削作業におけるバックホウ
・舗装作業におけるダンプ、ローラ類
・工事規制

2）製品部門

・工場設備におけるベルトコンベア、ギア、チェーンなど
・工場作業におけるバックホウ、タイヤショベルなど
・合材運搬におけるダンプトラック

● 品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステム（ISO9001）は、認証範囲を「舗装および土木構造物の設計および施工」として支店毎に全支店が認証を取得しています。品質方針“「顧客のニーズに応え、人と環境にやさしい道づくり」を基本とし、顧客と地域に信頼感・安心感・満足感を与える品質を提供する”ために、顧客の要望事項を盛り込んだ着工前検討会を実施し、施工中は社内検査および現場パトロールで工程を監視、完成時にも社内検査を行って顧客に引き渡しています。

また、着工から完成までのプロセスにおいて、内部監査を実施しており、認証機関からも年1回サーベイランスを受け、認証の継続を認められています。

VOICE

東北支店
安全環境品質部
家子　仁

事故を防止するためにはどうすべきか？東北支店では、事故が起きる前のヒヤリハットを情報シートとして現場から集め、傾向を分析してそれを各現場へと水平展開しています。各工事・工場では地域性を含めた危険特性が事故の原因となっていることを目で見てわかってもらうことが大事です。また、品質・環境に関する苦情なども情報シートで受け付け、水平展開して再発防止を図っています。

災害への対応

● 避難訓練の実施

2013年11月、経済産業省の要請に合わせ、首都直下型地震を想定し、気象庁から緊急地震速報が一斉に発信されたという設定で本店において避難訓練を実施しました。参加者は76名で、まず緊急地震速報を受けたと同時にヘルメットの着用・机の下への避難など、身を守る行動をとり、その後揺れが収まったと仮定して指定避難場所に集まりました。参加者全員の無事を確認後、品川消防署の方から避難時の心得などを話していただきました。

また、本店内の災害用備蓄品について、近隣の建物倒壊による危険や津波による水位上昇の危険性を参加者に説明し、災害発生時には、屋内に留まったほうが安全な場合もあることを認識してもらいました。最後に、品川区の指定避難場所である芳水小学校まで徒歩で移動し、避難訓練を終了しました。

指定避難場所への移動の様子

CSRマネジメント

会社基本方針

「顧客のニーズに応え、人と環境にやさしい道づくり」

を基本とし、顧客と地域社会に信頼感・安心感・満足感を与える品質を提供する。

● 上記方針を確実にするための優先項目

1. 労働安全衛生活動の推進と、地球環境の保全に努めます。
2. 品質と顧客満足の向上のために、マネジメントシステムを継続的に改善します。
3. 法令・規制、倫理規範を遵守した企業活動により、社会的責任を果たします。

経営の理念

わたしたちはひろく社会資本の整備に貢献し、地域社会の豊かな生活の向上に寄与することを企業活動の使命と自覚する。

信義・誠実の原則のもと誇りと責任をもって、人と環境を大切にした事業活動を推進し安全を第一として、より優れた技術と品質の提供により快適で潤いのある生活空間の創造を目指し、もって豊かな地域社会の発展に貢献する。

● CSR推進体制

さまざまな視点から下記の各委員会において、CSR活動を推進しています。「遵法」を最優先課題とし、コンプライアンス・リスクマネジメントを徹底した事業活動を通じ、企業の社会的責任を果たします。また、それぞれのステークホルダーとの繋がりを尊重し、持続可能な企業づくりを目指しています。

※CSR報告書制作グループは、CSRに基づいた事業活動、環境施策、社会貢献活動などについて、各委員会から情報を収集し、全てのステークホルダーに対して、公正で透明な報告書の制作に努めています。

社長

■ 倫理委員会
全ての法令・通達などの遵守、不正経理の排除などを徹底させ、社内倫理の確立を図り、事業活動の適正化を推進する

■ 企画委員会
経営に関連する重要事項の策定・審議・調整を行う

■ 安全衛生委員会
労働災害の防止と安全衛生の向上に資する

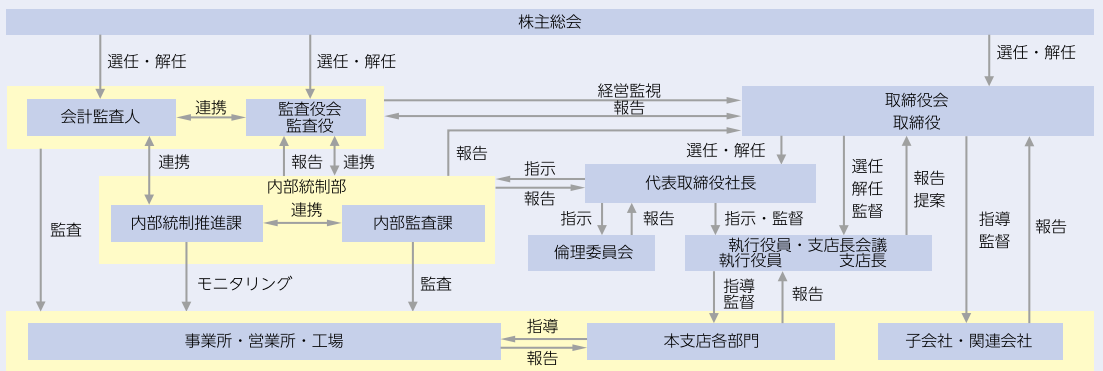
■ 環境委員会
地域における環境への負荷の低減、地球環境保全、公害防止などの施策を総合的かつ計画的に推進する

■ 地球温暖化防止対策委員会
国および地方公共団体が定めるCO_2削減対策への取り組みを立案し、推進する

■ 労働時間等設定改善委員会
従業員のゆとりある生活と健康の維持促進を図るために、労働時間の短縮・休日取得促進など、労働時間設定の改善に取り組む

● コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについては、株主をはじめ取引先、従業員および地域社会を含む全てのステークホルダーの利益を考慮しつつ、継続的に企業価値を高めていく手段であると考え、経営上の最重要課題の一つと位置付けています。



コーポレート・ガバナンス構成図

執行役員制度

経営責任を明確にし、経営の意思決定・監督機能の強化を図ると同時に、業務の執行機能を強化するため執行役員制度を採用しています。それぞれの役割が有効かつ効率的に実行される体制を構築しています。また、全国に11の支店を設置し、支店長がそれぞれの業務を統括しており、執行役員およびこれら支店長で構成する執行役員・支店長会議を開催しています。取締役会の方針に基づく会社の計画、経営管理の具体的方針などを決定するとともに、取締役会に対し業務の執行状況の報告および業務執行に関する提案を行っています。経営の健全性の維持と環境の変化に迅速に対応するため、取締役および執行役員の任期は1年としています。

監査役会

監査役会は、3名の社外監査役を含む５名で構成されており、取締役の職務の執行状況を監査し、経営の監視を行っています。3名の社外監査役は、それぞれ弁護士、公認会計士および大学教授であり、専門家としての幅広い知識と豊富な経験によって、独立した立場から監査業務を遂行しています。

内部統制部

内部統制部において、内部統制の評価および内部監査を行っています。内部統制推進課は定期的にモニタリングを行い、全社的なリスク管理の状況および内部統制の有効性・効率性の評価を実施しています。また内部監査課は監査計画に基づき会計監査および業務監査を実施しています。2013年度は全11支店・27営業所・24工場の内部監査を行いました。

● コンプライアンス

事業活動の適正化を推進するため、本店および支店に倫理委員会を設置するとともに前田道路倫理綱領を定めています。

倫理綱領は、①経営の理念 ②行動規範 ③安全確保・環境改善 ④法令遵守 ⑤決算の適正性の確保の5項目から成っています。

コンプライアンス教育

倫理綱領を基に、日常的に会議の場においてコンプライアンスを議題に取り上げ啓蒙活動を行っています。

また社内集合研修などでは2013年度は35回、延べ712名の従業員を対象にコンプライアンス教育が行われました。

環境パトロール

廃棄物処理法の遵守を主目的に監視を行い、適切な処理が行われるように努めています。 2013年度は、６支店38工場で環境パトロールを実施しました。

第三者意見

今年度の報告書は、昨年度『CSR報告書』へと進化した新たな形態を維持しながら全体構成そして細部にも工夫を加え、より一層充実した内容となっています。幾つかの観点からの意見と今後の報告書の改善点を述べさせていただきます。

武蔵野大学　環境学部　教授　学部長
佐々木　重邦　（ささき・しげくに）

経　歴

1977年 3月	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻 修士課程修了
1977年 4月	日本電信電話公社武蔵野研究所入所　通信用材料、部品の研究開発に従事
1999年 1月	NTTアドバンステクノロジ株式会社入社 環境マネジメント事業に従事
2009年 4月	武蔵野大学 環境学部 環境学科環境学専攻 教授(現在に至る) 学位：工学博士

● 道路事業と社会貢献

世の中で道路を利用しない人はいませんが、道路についてあまり知らない、考えたことがないのが普通ではないでしょうか。いわば空気みたいな存在だと思います。トップメッセージで「安全・安心な環境を提供し、道路という重要なインフラを守る役割をしっかり果たすことが、当社にとって最大の社会的責任である」と明確に謳っているのは、心に響きます。合わせて事業内容の紹介があると道路事業を理解しやすいと思います。「前田道路の安全とECO　人と環境にやさしい道づくり」で災害・緊急時対応、「マイルドパッチ」という新たな技術開発の紹介により、社会的責任をしっかりと果たしていることが実感でき、良い特集だと思います。

社会性報告の「地域社会とのコミュニケーション」では、建設関係の展示会への出展、現場見学会の開催など道路会社ならではの取り組みが紹介されており、親しみやすさを感じます。特に保育園にベンチを寄贈した取り組みは非常にほほえましく、小さなステークホルダーを大事にしていることが窺えます。

● 会社の姿をより知ってもらうために

VOICEが非常に印象的です。顔写真付きで従業員の生の声が聞けるというのはCSR報告書を読む側からすると会社の姿がそのまま心に響き、会社に対する信頼感が増します。また専属作業員宿舎を快適な住空間へリニューアルを行った記事は、ES（Employee Satisfaction）を真剣に考えている会社であるということが伝わってきます。

「従業員とともに」を今回掲載しているのは大きな改善だと思いますが、ステークホルダーとして知りたいワークライフバランス、女性活躍推進などに関する記事、データも掲載して欲しいと思います。2012年度に比較して従業員数が大幅に増えている理由が事業概要の従業員数の推移の図の注釈にでていましたが、有期雇用契約社員から一般職社員への職群転換であることをこの項でもっと大きく取り上げても良いと思います。道路事業ならではの労働安全衛生マネジメントシステムの運用の記載がありますが、この取り組みで災害率がどう変化したかなど具体的なデータがあると説得力が増すと思います。

● 報告書全体を通して

頁数が20頁と他社の報告書に比較してかなり少ないですが、必要な事項をコンパクトに記載されていて読みやすいと感じました。しかしながらもっと必要な情報を伝えるために目次などは工夫が必要だと思います。また第三者意見の分量も全体の頁数から考えて減らす必要があると思います。写真が多く使用されているのはそれぞれの様子が伝わってくるので分かりやすいですが、単なる様子を示す写真ではなく、その施策の効果がわかるような写真やデータとする工夫が必要だと思います。

説明不足のところも幾つかあります。「環境行動計画と目標報告」で評価が🍀達成できなかったになっている部分は分析をしっかり行う必要があります。またCO_2排出量の削減目標を変更した理由が主体的ではなく、誰もが納得のいく説明が欲しいところです。

● 今後の報告書の改善点

これまで述べてきた以外の報告書の改善点について二点ほど指摘させていただきます。

一つ目は読み手の理解しやすさ、納得感を得るために具体的データを取得して掲載する工夫が必要だと思います。例えばロードサスベイブ（振動軽減舗装）について「短期間の工事で沿道の生活環境が改善」できるなら沿道住民の生の声を取得して掲載する、またヒートオフペイブ（遮熱性舗装）についても単に施工した場所の写真ではなく、遮熱効果が目で見て分かる赤外線写真の掲載が効果的です。

二つ目は、データの分析を十分に行う必要があります。バイオマス燃料使用状況、建設副産物のリサイクル状況の推移の図には経年変化のデータがありますが、分析が不足しているのが残念です。

今回第三者意見を担当させていただき、道路事業について、貴社について詳しく理解させていただきました。今後の報告書改善の参考にしていただければ幸いです。

会 社 概 要 （2014 年 3 月現在）

● 事業概要

社名	前田道路株式会社
本店所在地	東京都品川区大崎1丁目11番3号
設立年月日	1930年（昭和5年）7月19日
資本金	193億5,083万円
決算期	毎年3月31日
株式上場	東証第一部
従業員数	2,201人
建設業許可	国土交通大臣許可（特-24）第2313号

主要な事業内容

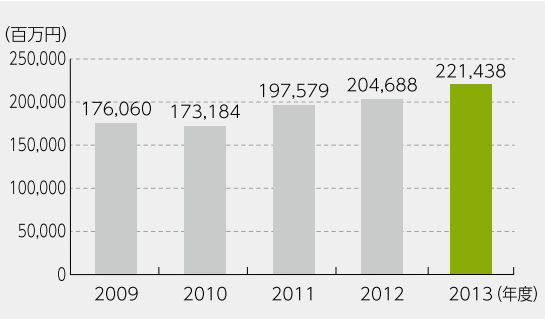
1．土木建築工事の請負、設計ならびに監督
2．土木建築工事の諸材料の製作ならびに販売
3．産業廃棄物の処理およびその再生製品の販売ならびに土壌浄化

● 全国の事業所

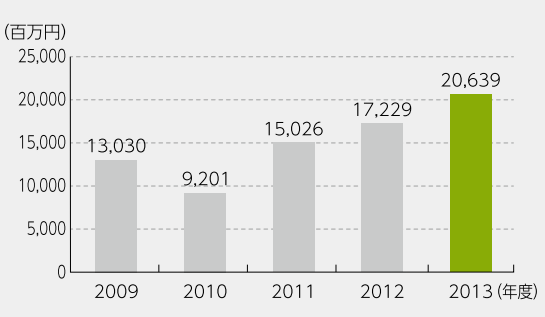
支店　北海道・東北・北関東・東京・西関東・中部・関西・中国・九州・北陸・四国

その他	技術研究所・機械センター
事業所	4ヵ所
営業所・出張所	119ヵ所
総合合材工場	2ヵ所
合材工場	100ヵ所
破砕工場	90ヵ所
乳剤工場	11ヵ所

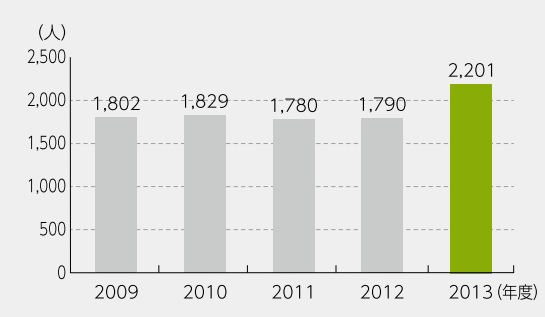
● 売上高



● 経常利益



● 従業員数



(注) 2013年度に従業員が増加している主な要因としては、2013年4月1日付で有期雇用契約社員を一般職社員へ職群転換したことによるものであります。

編集後記

公正で透明な事業活動と環境保全や社会貢献活動の情報発信手段として、昨年から「CSR報告書」を発行し、今回で２回目となりました。本報告書が、当社と社会を結ぶ繋がりとなり、より多くの方々が当社を理解し、応援していただくことを願いつつ制作しました。

当社の事業活動は地域社会に密着し、地域の人々と環境を大切にして信頼を勝ち得なければ成り立ちません。安定した豊かな社会の構築に貢献し、信頼の絆をゆるぎないものとするために、当社に勤める一人ひとりが社会的責任を全うすることと確信しています。

最後になりましたが、第三者意見をご寄稿いただいた武蔵野大学環境学部学部長　佐々木様、そして裏表紙を飾る「Kids Painting」に応募していただいた当社ならびに関係会社社員の子どもたち、そして本報告書の発行にあたりご協力いただきましたすべての関係者の皆さまに、心より厚く御礼申し上げます。

お問い合わせ

前田道路株式会社
総務部

〒141-8665
東京都品川区大崎1丁目11番3号
ＴＥＬ：03-5487-0017
ＦＡＸ：03-5487-0010
ＵＲＬ：http://www.maedaroad.co.jp

【発行】2014年10月（次回発行予定2015年10月）

Kids Painting

For Environment & Safety world

ここでは、当社ならびに関係会社社員の子どもたちが、
環境や安全をテーマとして描いた作品を掲載しています。

前田道路株式会社
MAEDA

本　　店	〒141-8665	東京都品川区大崎1-11-3	Tel.03(5487)0011(代)
技術研究所	〒300-4111	茨城県土浦市大畑208	Tel.029(833)4311
北海道支店	〒064-0811	札幌市中央区南11条西11-2-1 札幌山鼻MKD2ビル	Tel.011(561)5181
東北支店	〒980-0802	仙台市青葉区二日町4-11 ウインド・エコパワーMKD9ビル	Tel.022(265)1151
北関東支店	〒330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-11-2 勝俣ビル	Tel.048(643)3641
東京支店	〒108-8643	東京都港区白金台5-22-12 前田道路白金ビル	Tel.03(3448)2231
西関東支店	〒231-0032	横浜市中区不老町3-12-5 下山関内ビル	Tel.045(662)4121
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄5-25-25 MKD名古屋ビル	Tel.052(262)1320
関西支店	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町2-5-30 MKD10大阪ビル	Tel.06(6253)7501
中国支店	〒730-0045	広島市中区鶴見町4-22 MKD1ビル	Tel.082(246)4422
九州支店	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東2-14-1 スフィンクスセンター	Tel.092(411)9421
北陸支店	〒950-0916	新潟市中央区米山3-2-11 新潟米山MKD5ビル	Tel.025(241)0460
四国支店	〒760-0050	香川県高松市亀井町7-15 セントラル第1ビル	Tel.087(862)1780